

## 海外留学派遣セミナー

「かけ橋サロン 第2回：研究準備～受け入れ人との交渉と研究環境の準備～」

小谷英生

平成23年度「組織的な若手研究者海外派遣プログラム」で、5～7月にドイツ・キール大学 (Christian-Albrechts-Universität zu Kiel) に留学していました。カントの政治哲学研究で有名なW・ケ

アスティング教授に師事し、研究の基礎的な作業、博論の構想についてのアドバイスをもらいました。また、誰にも邪魔されずに「理解できるまで徹底的にテキストを読む」という研究ができたことも、幸せな留学経験のひとつでした。主要な研究成果は今年秋の二度の学会発表に結実しましたが、ケアスティング教授の著作の「翻訳」の話を取り付けてきた、というのも大きな成果でした。



### 1. 留学中、最重要のもの（あるいは、最低限の条件）

- 留学中とにかく一番重要なもの → 「お金」と「パスポート」。
- 研究面で重要なもの → 「身分（学生証、図書館使用許可証）」。
- 生活面で重要なもの → 「衣食住」、そして「滞在許可（ビザ）」。

※とりあえずこの三点をクリアしなければ、集中して研究することはできません！！

とくに「衣食住」については忘れがちなので、意識するとよいかもしれません。

### 2. 留学前の「望ましい」準備

あくまで「望ましい」です。実際には、色々なことがギリギリになったりしますが、「こちらの都合で話が進まない」ということを肝に銘じ、早めに動き出すことをお勧めします。

#### ①留学一年～半年前まで

- 受け入れ先の教授探し(複数人) → 日本の先生からの推薦、論文を読んで興味をもった、など。

※できれば、早めにコンタクトをとる。ヨーロッパの大学は、7、8月はバカンス(Urlaub)シーズンで事務の動きが緩慢。12月はクリスマスシーズンで、手紙などが届きにくい。また、有名な先生であれば3・4月、9・10月の国際学会シーズンに留守にしていることも多い。

- 奨学金探しと、日本での推薦人探し。

・語学力アップ → 語学学校その他。

※受け入れ先大学、申請したい奨学金の語学要件もチェック！必要な資格があれば早めにとっておく必要がある。

## ②留学半年～3ヶ月前

●教授とのコンタクト。メールと手紙の二重攻撃。

→こちらが準備しておくもの：Lebenslauf(履歴書)、業績リスト、研究計画書。

●受け入れ先大学での身分の確認。 → ホームページをチェックした上で、国際課(International Center)にメールしてみる。必要書類、手続きなどを確認。

●奨学金をとる（私費の場合は除く）

## ③三ヶ月前から出発まで

●大学での入学許可（見込みであれ）を確認。

●家探し → 受け入れ身分によって、学生寮に入れる場合もある。また、短期の場合、教授に頼んで大学のゲストハウスを押さえてもらう。ふつうのアパート(Wohnung)を探す場合、たとえば<http://www.studenten-wg.de>などのサイトを利用する。

とりあえず、教授の許可(念のため文章でもらう)、大学の入学許可(見込み。ちなみに教授の推薦書があると強い)、奨学金(もらえる場合)が揃えば、準備としてはOKです。

※ただし、実際に行ってみて「話がちがうよ！」となることもしばしば。現地での混乱を避けるために、(1)教授や事務、大家さんとのやりとりは必ず文書(メール、公式文書)でもらい、プリントアウトしておく。(2)念のため、卒業証明書、成績証明書、在学証明書などの英語版を出身・在学大学の事務につくってもらおう。ちなみに今回の留学では、教授の推薦書と奨学金の証明書(つまり金銭的な保証)が、かなり効力を発揮しました。しかしドイツは州や大学によって必要書類が違うので、証明書は用意しておいたほうが無難です。

●航空券を押さえる。

●生活必需品の購入。

●研究資料、衣類などを郵送

→原発事故の影響で荷物検査が厳しくなっています。肉類、乳製品が少しでもはっていると送り返されるので注意！僕は「ビーフカレー」がひっかかって、ひとつ日本に戻されました。短期留学で研究資料がはいっている場合、これは致命的になります（ちなみにそのダンボールには食品しかはいっていなかったんですが...）。

※ドイツでの住居(の大家さんやHausmeister/in)に、あらかじめ荷物を送ってもよいか確認しておくとうい。到着後すぐに手続きやら買い物やら大学やらがあり、家を留守にすることが多いため、荷物を受け取るタイミングが難しい。

### ●研究資料のスキャン

→大量の資料を送るとすごい金額になるため、データ化しておくといよい。往復の輸送費でスキャナー買えるぐらいお金かかります。なお、受け入れ先の大学図書館にスキャナーがない場合、自分でもっていきといいかと思います。文献資料収集が留学の主要目的である方も多いのでは。

●受け入れ先の先生の授業、オフィスアワー(Sprachstunde)の時間をチェックし、最初に会いに行く日時を約束しておく。

●ローカルな情報を集める。→自宅周辺に何があるのか、大学までどうやっていくのか、など。

●国際キャッシュカードをつくる。

→回し者ではありませんが、新生銀行が便利です。＊短期の場合、ドイツで口座を開かないと思うので、日本の国際キャッシュカードに頼ると思います。長期の場合でも、緊急用に必要です。

●クレジットカードもつくる(もっていなければ)。

●保険にはいる → 保険契約書をドイツ語に訳す。

＊出発後は保険に入れなくなるので注意！！ちなみに、ドイツで学生になる場合、学生健康保険にはいなければならない。しかし、窃盗その他は保険対象外なので、保険に入っておいた方がよいでしょう。90日以内の短期留学であれば、クレジットカードをゴールド(=保険付き)にするという手もあります。

### 3. 到着後一週間

到着後一週間以内に生活をスタートさせることが、在外研究を成功させるための大きなポイントとなると思います。たとえば、ビザひとつとってみても、手続きがうまくいかなかったり、無駄に待たされたりすると、なんだかモヤモヤして研究に集中することはできないものです。

海外で事務手続きをする際の注意点をひとつ。無駄に待たされる、半日しか空いていない、書類に難癖つけられる...などで、想像の三倍時間がかかります。バスを乗り継ぎが悪く、ようやく市役所にたどり着いたときにはすでに閉まっていた、など。そんなときは「場所が確認できてよかった」とか「所要時間がわかってよかった」といったかたちでポジティブにとらえると、留学が楽しくなるものです。



●まずは住民登録

→区役所Bezirkthausや市役所Rathausに行く。パスポート、奨学金の証明証、大家さんとの契約書を忘れずに。市によっては、専用の書類があり、大家さんのサインが必要だったりします。大家さんが違うところに住んでいてなかなかサインがもらえない、などのトラブルを避けるために、日本にいるときに事前に確認するといいかと思います（必要書類は市役所のHPに載っています、たぶん）。このとき、外国人登録局に行け、という指示が出される場合があります。

※市役所は午前または午後だけしか空いていない、というパターンが多くあります(写真)。HPであらかじめ確認するとよいかと思います。

●住民票を手に入れたら、大学の学生課へ →学生本登録です。

※州によっては、住民票があれば大学の図書館が使えるところもあります。しかし、市内交通乗り放題や学生割引など、特典があるので、短期留学の場合でも可能であれば学生登録しておくとういでしょう。留学先で身分がある、というのは精神的にも大事なポイントです。

●短期留学の場合は、プリペイド携帯（Guthaben）を買うとよいでしょう。州によって違うでしょうが、パスポートと住民票（住所がわかればOKの場合もある）の提示を求められる場合もあります。

●住民票と学生証を手に入れたら、外国人登録局へ。ビザの手続きです。

※ちなみにドイツは、三か月以内の滞在ならばビザは必要ない...かと思いきや、それは「観光」ビザで、「滞在」ビザは二か月以内のようです。したがって、二か月以上「住む」場合にはビザが必要...と思ったらやっぱり、外国人登録局で三時間待った挙句、「日本人は三か月以内ならばビザは必要ない、帰れ」とつっぱねられました。結果的には滞在OKということだったので結果オーライですが、なんか納得いかないですね。これも経験です。

とりあえず、以上の手続きが無事に済んだら、あとは生活面を整えればよいだけです。

●足りない家具を購入 →学生寮、ゲストハウスには家具が備え付けてあるが、暗いのでランプを買う、などが必要だったりする。

※ちなみに僕は家具なしアパートに住んでいたのて、①ベッドについてはマットレスのみを通販で購入、②机、いす、ランプ、カーテン（布のみ）をIKEAで買い、がんばって運ぶ、ということをやりました。

●調理器具、食器をそろえる →安い店をさがそう。

※僕は100円ショップなどを利用して、日本で大量に買っていきました。プラスチックの食器やまな板、他に菜箸やフライ返しなど、そのまま捨てて帰れるものや、包丁、軽い鍋なんかも持っていきました。せっかく研究に集中したいのに、こまごましたものがなくてストレスになったり、わざわざ買いに行ったりするのがいやだったもので。



●日本から送った荷物を待つ。郵便局のHPで追跡可能。

以上、少しでもお役にたてたらうれしいです！！